

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	21	学校名	大垣北高等学校
------	----	-----	---------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	国内外の様々な分野で活躍する人材を数多く輩出してきた西濃地域の伝統ある高校として生活信条「誠実・友愛・努力」のもと、生徒の視野や可能性を広げる全教育活動を通して豊かな人間性と高い知性で新たな時代を拓く挑戦者の育成を目指す学校
------------------------	--

学校教育目標 (教育方針)	人間尊重を基調とし、智・徳・体の調和のとれたたくましく豊かな人間性を育み、高い志とグローバルな視野をもって人類・社会に貢献できる有能な人材を育成する。そのため、「誠実・友愛・努力」を本校の生活信条とし、その具現に努める。
------------------	--

3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誠実に未知に挑み、新たな世界を拓こうとする人</li> <li>・友愛のこころをもち、多様な人々と協働して社会に貢献する人</li> <li>・努力を重ね、学び続ける人</li> </ul>
	生徒をどう育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が失敗を恐れず挑戦を重ねることで、より良い道を選択・創造する各種活動への惜しみない支援</li> <li>・基本的な知識を確実に習得し、論理的な思考力・洞察力・探究力を身につけることのできる授業の実施</li> <li>・生徒の視野を広げ、豊かな人間性を身につける行事・生徒会活動・課題活動等の実施</li> </ul>
	どんな生徒を待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誠実に様々なことを探究する姿勢がある生徒</li> <li>・友愛のこころをもつ生徒</li> <li>・幅広い教養を身につける努力をする生徒</li> </ul>

学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の主体的な学習態度の育成と教科横断的・探究的な深い学びへの導き（学習指導）</li> <li>・卒業後の生き方と社会的役割を意識したキャリア教育の充実・主体的進路意識の向上（進路指導）</li> <li>・自らの価値や存在意義を肯定できる感情の醸成と自他を互いに尊重し助け合う態度の涵養（生徒指導）</li> <li>・図書貸し出し冊数の減少傾向に見られる本離れ、図書館離れの改善及び情報発信の強化（その他）</li> </ul>
----------	---

教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自ら課題を発見し克服するために、意欲を生み出す授業を展開し、確かな学力の伸長を図る。</li> <li>・DXハイスクール事業により整備された学習環境・設備を活用し、より多くの生徒が自由に学習できる機会を提供し、対話的・協働的な学びの充実を図る。</li> <li>・総合的な探究の時間（SD探究）を中心に、データサイエンシス的なアプローチを身に付け、深い学びを導く探究活動を展開する。</li> </ul>
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の視野を広げ、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力を高められるよう、個々の取組を適切かつ計画的に支援する。</li> <li>・様々な分野で活躍する卒業生と在校生をつなぎつつ、説明会や進路面談を充実させることで、学習と将来の進路目標をつなぐキャリア教育を行う。</li> </ul>
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての生徒・保護者にとって安心・安全で居心地の良い学校づくりを目指すとともに、いじめや生徒指導上の問題の未然防止・早期発見・早期対応に努める。</li> <li>・不登校傾向の生徒や困り感を持った生徒に対し、スクールカウンセラーや外部機関と連携し本人及び保護者に寄り添った継続的な支援を行う。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科学習や探究学習を主体的に課題解決できる空間を提供し、読書の感動を共有できる生徒を育てる。</li> <li>・知的好奇心・興味関心を喚起し、未知の世界を広げる情報を提供する。</li> </ul>

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
学習指導	・教科横断型研修グループメンバーによる授業改善を図る。	施策Ⅱ-8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業の実施(100%)</li> <li>・学校評価アンケート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科において研究授業担当者を構成員とした教科横断型グループメンバーによる研究会を開いた。</li> <li>・学会、研究会への参加者は20%を超えた。年間通じてその分野の専門的な教授から適切なタイミングで指導を受け、成果物の精度も向上している。</li> <li>・データサイエンシスに関する講義を実施し、生徒が具体的に取り組む内容やその手順など明確になった。</li> <li>・オオキタサポーター利用者が12月までで21名となった。</li> <li>・医学部医学科ガイダンス参加者は生徒49名・保護者36名。大学説明会は生徒200名以上、保護者166名以上。小論文・面接ガイダンスは生徒100名以上の参加があった。</li> <li>・総合型選抜・推薦入試の利用者が急増し、新たな対応を迫られる場面が複数回あった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科横断型にすることにより、教科特有の授業展開やICT活用法について他教科と共有することができた。</li> <li>○全体として、学会、研究会、コンテストなどに意識が向き始めている。</li> <li>▲探究活動には伴走することが不可欠であり今後、全教員の協力がより必要となる。</li> <li>○DXラボの有効活用を促し、質の高い研究の支援を行った。</li> </ul>	A
	・大学教授・企業関係者による専門性の高いレクチャーへの積極的な参加を促し、成果物につなげる。	施策Ⅱ-11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学会、研究会への参加(全体の20%)</li> </ul>				
	・DXハイスクール事業により整備された機器を活用し、研究発表を加速する。	施策Ⅱ-9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校外の研究発表件数、参加者数(10%増)</li> </ul>				
進路指導	・大北先輩講座等、卒業生を中心とする外部講師からの講話を通じキャリア教育の充実を図る。	施策Ⅱ-11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート</li> <li>・オオキタサポーター年間利用者数(昨年度15名→40名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学部医学科ガイダンス参加者は生徒49名・保護者36名。大学説明会は生徒200名以上、保護者166名以上。小論文・面接ガイダンスは生徒100名以上の参加があった。</li> <li>・総合型選抜・推薦入試の利用者が急増し、新たな対応を迫られる場面が複数回あった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自習マラソン開催等の効果もあり、昨年度よりオオキタサポーター活用数が増加している。</li> <li>○各種ガイダンスへの生徒・保護者参加数について、目標を達成することができた。</li> <li>▲大学入試に関して、総合型選抜・推薦入試の比率が年々高まっていることから、入学時からの体系的進路支援を再構築する必要が出てきている。</li> </ul>	A
	・新課程入試に対応した指導(生徒・保護者を対象とした進学説明会・個別懇談等)を充実させる。	施策Ⅱ-13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路支援部主催各種ガイダンス・説明会への参加者数(一種につき50名以上)</li> </ul>				
生徒指導	・いじめに向かわない態度・能力の育成やいじめが起きにくい・いじめを許さない学校づくりのための包括的な体制を整備する。	施策Ⅰ-7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校いじめ防止基本方針の見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校いじめ防止対策委員会の外部委員の意見を参考にしながら学校いじめ防止基本方針の改定を行った。</li> <li>・欠席が続き不登校になりそうな生徒のケース会議を早期段階で行い、生徒を支援し学校に登校ができるようになったケースが複数回あった。</li> <li>・生徒に対して「SOSの出し方教室」、職員に対して職員研修会「いろいろな視点から発達障がいを考える」を実施した。</li> <li>・生徒会やMSリーダーズによる生徒の主体的な交通安全啓発活動を行い、またTeamsでの発信や集会での講話を行い、ヘルメットの着用率向上につなげた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲インターネットを通じて行われるいじめは各学校において増加傾向であり、発見しにくい、予防と対策が必要である。</li> <li>▲生徒指導上の深刻な課題に備え、校内の組織的な対応と共に、関係機関との連携・協働するための準備を進めることが必要である。</li> <li>○主にこころのアンケートから訴えがあった生徒を教育相談からSCやスクール相談員に繋げ、継続的に支援することができた。</li> <li>○不登校の原因として学業不振によるものが多く、自己肯定感の向上を図るよう各教科や学年等と連携し個に応じた支援体制を構築できた。</li> </ul>	A
	・不登校傾向の生徒や困り感をもった生徒に対し、ケース会議の開催など早期段階から組織的に対応し、支援方針の決定を行う。	施策Ⅰ-3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート</li> <li>・認知したいじめの、解消した割合(100%)</li> <li>・SC等活用事業報告書</li> <li>・心のアンケート</li> </ul>				
	・スクールカウンセラー、スクール相談員、スクールソーシャルワーカーや外部機関と連携し、本人及び保護者に寄り添って継続的に支援する。	施策Ⅲ-19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Teamsや教室掲示での発信の増加</li> </ul>				
その他	・Webサイトや「すぐる」を活用した保護者や中学生への情報発信を増やす。	施策Ⅳ-20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更新数、アクセス数、「すぐる」による発信件数(10%増)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐるを活用した連絡は、行事や緊急連絡を含め多用できた。</li> <li>・図書委員会の活動について周知されていないところがあるのでアンケート結果が芳しくなかった。図書の貸出冊数は昨年度とほぼ同じで推移した。</li> <li>・今後teamsだけでなくポスターや放送などで適宜アナウンスしたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○すぐるを活用した連絡は昨年度より10%増となった。</li> <li>○貸出冊数は昨年とほぼ同じ数になり、新書や調べものなど活用を促進できた。</li> <li>▲アンケートの質問内容を具体的にできるように変更する。</li> </ul>	B
	・図書情報館の利活用を促進し、図書貸し出し冊数を増やす。	施策Ⅱ-8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器センサーによる利用者の概要の把握</li> <li>・図書貸し出し数(20%増)</li> </ul>				
	・図書情報館の広報を図書委員会中心に生徒と共に、進路支援・学習ができる居場所とする。	施策Ⅱ-13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート(肯定評価が生徒・保護者ともに80%以上)</li> </ul>				

<p>来年度に向けての改善方策等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(学習指導) 来年度も教科横断型グループによる授業研究を継続する。</li> <li>・(学習指導) 探究の質と効率をあげるため、A Iの効果的な活用方法を学び、実践していく。</li> <li>・(学習指導) 探究学習の際、より多くのグループに教員が伴走できる体制を作る。</li> <li>・(進路指導) 持続可能な授業外学習支援のあり方について本格的に検討・立案を行う。</li> <li>・(進路指導) 大学入試の多様化に対応すべく、入学時からの体系的進路学習について再構築を行う。</li> <li>・(生徒指導) 教育相談、生徒指導、保健室は常に情報共有し、連携して生徒及び保護者の支援に当たる。</li> <li>・(生徒指導) ヘルメットの着用率を向上させるための取り組みを他部署と協働して行う。</li> <li>・(生徒指導) 課題予防的生徒指導の活動の工夫を図る。</li> <li>・(その他) 図書館で会議や人が集まるイベントを行い、学校の行事の一端を担うようにする。</li> <li>・(その他) デジタルサイネージやDX機器、ロボットなどを活用し、図書館を読書だけでなく幅広い学びの空間とする。</li> <li>・(その他) 図書館に関する質問を具体化して蔵書の問題なのか情報提供の問題なのかを明確にする。</li> </ul>	<p>学校関係者評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校で使用していたヘルメットは経年劣化する。ヘルメットの耐用年数を考慮し、安全のために新調することで着用率の向上につながる。</li> <li>・学習成果発表を見て、調査分析能力やプレゼンテーション能力が非常に高い。生徒は安心して力を発揮しているように見える。クラスだけでなく部活動等の課外活動の集団にも居場所がある。外部機関と連携しながら、能力の高い生徒の力を引き出している。大垣北高校は平均的な力が高く、素晴らしい素養を持っている生徒が多い。北高が北高であるために必要なものは何かを考えるべきである。生徒の面白い突出した研究を地元の優秀な方々の支援により地域連携につなげると、生徒がより輝く。</li> <li>・いじめや不登校をなくすための取組みとして、スクール相談員やスクールカウンセラー、外部機関との連携を積極的に進めている。</li> <li>・アンケートの実施や組織的対応など丁寧に支援・指導しており、学ぶところが多い。</li> </ul>
--	--

実施日：令和8年1月22日